コロナ禍におけるイベント開催 感染対策の目安(山口モデル)

~ 主催者・施設管理者と観客・参加者が一緒に作り上げる安全・感染対策 ~

	警戒レベル	高	中	低・予防警戒
	【感染状況】	市内で感染者 (感染経路不明) が複数発生	左記の感染経路の特定完了	左記の感染者発生から10日間程度経過後
備考(具体的事例)		感染源者から市内で複数感染が発生し、緊張が走った直後を想定	感染源者からの感染経路の特定と濃厚接触者のPCR検査が完 了、市中感染拡大の懸念が無いと判断できた時点。	感染源者からの市中感染拡大の懸念が無い事が確認され、かつ、 最初の感染確認から概ね10日間程度経過し、その後も感染者が 発生していない状態
政府の段階的緩和		その時点での政府の緩和基準をクリアする		
業界基準		業界ごとに別途定められた基準をクリアする		
山口モデル	①主催者・施設管理者が行う感染対策~ゲートで 感染確認、内部で感染対策~ ※会場入口がある場合の感染症対策などは、市の 施策による補助を要望 注)業種別ガイドラインに準じる内容あり	よほどの理由が無い限りイベントの開催自粛。 しかし、開催する必要性が高い時は、感染者数が下降している状況を確認したうえで、関係者、観客などへ感染の状況、対策を最大限アナウンスし万全を期して開催する。 ガイドラインに沿って入場者の制限も行う。	A)【重症化のリスクが高い高齢者等に配慮した感染対策】 屋内 および 屋外 どちらの開催のケースでも、高齢者等専用の ゲートおよび高齢者等専用座席を設けるよう配慮する。	A)【重症化のリスクが高い高齢者等に配慮した感染対策】 屋内 で開催時、高齢者等専用のゲートおよび高齢者等専用座席を 設けるよう配慮する。
		衛生面では、業界別のガイドラインを遵守して実施する。 必要な限り「中」のA)~G) (右欄参照) を実践し万全の対応を行う。	B)【会場で十分な消毒対応】 屋内、屋外会場で参加者が触れる場所、座席などを細やかに消毒に対応	同左
			C)【会場入り口、屋内会場で定期的な衛生対策】 会場入口で観客・参加者に消毒(アルコール過敏症への配慮含む)奨励、厚労省が出した『接触確認アプリ(COCOA)』の インストールを 条件 に入場許可する	C)【会場入り口、屋内会場で定期的な衛生対策】 会場入口で観客・参加者に消毒(アルコール過敏症への配慮含む)奨励、厚労省が出した『 接触確認アプリ(COCOA) 』の インストールを 推奨 する(案内掲示)
			D) 【サーモグラフィ機器、参加者セルフチェック&連絡先確保システムの(レンタル)導入】 サーモグラフィ機器、参加者セルフチェック&連絡先確保システムの導入(レンタル含む)により感染経路対策を構築	同左 さらに、参加者セルフチェックと連絡先確保システムへの対応が 難しい場合は、感染発生の際主催者が公表し、参加者からの連絡 に対応する窓口を設置。公表と対応窓口の周知を徹底する。
			E) 【観客・参加者へ感染対策マナー向上を啓発・周知】 チケット販売システム・イベント告知(ポスターなど)と併せて観客・参加者へ感染対策マナー向上を周知・啓発	同左
			F)【県防災危機管理課へ事前相談】 イベント参加者が1000人を超え、全国的な人の移動を伴うイベントを開催する場合、山口県防災危機管理課へ事前に相談して 実施する	同左
			G) 【スタッフの健康状態について】 イベント開催にあたり、1週間前から検温による健康状態を管理 する。	同左
		主催者から感染情報を得て対策を十分にとり観覧・参加を検討する。	H)イベント当日の検温、チェックリストを活用し体調を確認。 厚労省が出した『 接触確認アプリ 』のインストールを 条件 に参加 する。	H)イベント当日、検温などにより体調確認。厚労省が出した 『 接触確認アプリ 』のインストールを 呼びかけ る。
	②観客・参加者自身が行う感染対策	感染対策・マナーを万全にして会場へ行く。 『接触確認アプリ』をインストールして動作確認も行う。さらに、主催者が用意する用紙に参加者氏名を記入する。記入がない時は参加を断る(アプリをインストールできないスマホの場合は氏名・連絡先を確実に用紙に記入してもらう)。	I) 主催者が用意する用紙に参加者氏名を記入する。 イベントの後、主催者情報で感染発生の有無を確認し、発生の 場合は各自が主催者へ連絡する	I)主催者情報で感染発生の有無を確認し、必要に応じて主催者 へ連絡する